

(財) 原子力環境整備促進・資金管理センター

第13回 最終処分積立金運用委員会 議事録

1. 日 時 平成19年2月7日(水) 10:00～11:30

2. 場 所 東京都港区虎ノ門4-1-1
虎ノ門パストラル 新館6階 ペーシュの間

3. 委員の現在数 4名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長 若杉 敬明

委 員 神谷 高保

委 員 中村 実

委 員 山崎 元

以上 4名 出席

5. 議 題

I. 平成18年度最終処分積立金運用実績(1月末現在) (報告)

II. 平成19年度最終処分積立金運用方針及び計画 (審議)

6. 開 会

事務局から、本日の最終処分積立金運用委員会は同規則第4条の規定による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告があった。

続いて、井上毅理事長から挨拶を述べた後、委員の任期更新に伴う委員長の選出について諮ったところ、委員の互選により、若杉敬明委員が委員長に再選され、委員長再任の挨拶を述べた後、議事に入った。

7. 議事の概要

事務局から、上記5.の議題について下記の説明を行った。

I. 平成18年度最終処分積立金運用実績(1月末現在)

平成18年度運用額は、平成17年度積立金受入分から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の利息収入を加えた672億円を見込む。

運用内訳は、国債、政府保証債、地方債、事業債とも、ほぼ計画通りの運用を達成できる見通し。

平成18年度購入債券の平均利回りは、単年度の運用評価基準としての「当該年度の

運用計画をベースに加重平均した国債応募者利回り’を上回る見通し。

※ 平成18年度運用対象期間は平成18年3月から平成19年2月まで。

上記Ⅰ. の報告について了承した。

Ⅱ. 平成19年度最終処分積立金運用方針及び計画

運用の基本方針である（1）長期的に安全確実性を重視した運用 （2）割引率を目標とした運用収益の確保 （3）市場への影響に配慮、に基づき、平成18年度運用方針及び計画を踏襲し、平成19年度最終処分積立金運用方針及び計画を取り纏めた。

上記Ⅱ. の議題について審議した結果、了承した。

8. 次回スケジュール

平成19年5月下旬もしくは6月上旬を目途に開催したい。

9. 閉会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

<委員会で寄せられた意見>

Ⅰ. 平成18年度最終処分積立金運用実績

- 積立金の運用については、ほぼ計画通り運用されており、妥当なのではないか。

Ⅱ. 平成19年度最終処分積立金運用方針及び計画

- 既購入債券の満期償還金の再運用を考慮すると、債券購入時期を変更して満期償還の時期を分散させることも考えられるのではないか。
- 過去のデータからは、金利の変動に季節性は見られず、また金利の予測も困難であるため、満期償還の時期を分散させることは必ずしも良い結果に結びつくとは限らないのではないか。
- 確実に機会費用の発生を抑え、積立金を従来通りなるべく早期に運用すべきではないか。